

「ふるさととはしかみ会」のふるさとサポート活動をレポート

青森県南東部に位置する^{はしかみ}階上町。同町出身者や縁者でつくる「ふるさととはしかみ会」は設立 10 周年を迎えた。「ふるさと会」としてはまだまだ駆け出しだが、ふるさと階上への思いとサポート活動の活発さはピカイチだ」と話すのは会長の内城美名生さんだ。

7月6日(土)には「ふるさととはしかみ会」の第10回総会が都内で行われた。冒頭、内城会長は会の活動について報告した。「階上のウニとアワビは良質で、これを煮込んだ『いちご煮』は県を代表する特産品にもなっている。町で行われてきた『いちご煮祭り』が東日本大震災の際に中止になったことを聞き、町の応援になればと『いちご煮祭り in 東京』を開催。以来、毎年継続している。『in 東京』には、会員、出身者だけでなく、同僚やお隣りさんなどにも声をかけ、気軽に参加してもらいたいという意を込めている。『会に出席してファンになった』という出身者以外の会員登録も年々増えている」とあいさつした。つづいて、東京マラソンや青梅マラソンなど首都圏でのマラソンでは、階上町のロゴ入りTシャツを着て会として参加している。「青森人の祭典」(会場・上野公園：主催・青森県人会)では物産交流イベントをサポートしているといった報告も。そして最後にこのようにさまざまなサポート活動をしてきたが「やはり、階上の魅力は地元です。地元に行って素晴らしいさに触れ、感じてほしい」とアピールしていた。

総会につづいて、懇親会「いちご煮祭り in 東京」が行われた。会場には地元の食材を利用した料理が並び、階上とゆかりのあるメンバーが参加するタヒチアンダンスも披露された。また、町からは、浜谷豊美町長をはじめゆるキャラの「かぜ丸」も参加。わっせ交流センターの特産品も展示販売された。当日の参加者は約 150 名を数え、大いににぎわった。

この総会に先立って、5月23日には内城会長が運営する会社の会議室(都内)で、浜谷町長を迎えて町の現状を聞き、ふるさと会として支援や実施できる活動は何か、といった具体策を話し合う「町長と話す会」を開催した。浜谷町長は「こうしたふるさと会の皆さんの活動が地元では大変な励みになっている。今後も皆さんと協働して町の活性化に努めたい」と話した。

ふるさととはしかみ会第10回総会。浜谷町長(後列左から5人目)と役員、参加者の皆さん



「こんにちは!先輩」

東京で活躍する先輩との交流会

「ふるさととはしかみ会」では階上町立道仏中学校の生徒が修学旅行で上京する際に、会員と中学生との交流会を実施してきた。

6回目の今年は5月15日(水)9時30分より会の濱谷博通事務局長が勤務する(株)ミロク情報サービスのセミナールームで行われた。同会の内城美名生会長をはじめ野沢慶藏副会長、平戸喜一郎副会長、千葉行雄理事、浜谷大樹理事、濱浦清美監事、濱谷事務局長、そして、今回は特別ゲストに(株)ミロク情報サービス社員で女子サッカー日本代表で活躍する土光真代さん(日テレベレーザ選手)の8名が中学生を迎えた。

交流会では「ふるさととはしかみ会」で行っている東京での応援活動や独自に作成しているホームページなどを紹介。つづいて、はしかみ会のメンバーの自己紹介の後、生徒5、6人とメンバーひとりが一緒になってグルーpstady形式で意見交換した。

先輩からは「どんなことでもやってみて、チャレンジしてやること」「ネットが普及し、どこにいても仕事ができる時代になったが、自分のやりたいことをしっかり見つけることが大事」「上京してきたら『ふるさととはしかみ会』を訪ねてほしい」など励ましの声が。

生徒からは「先輩たちからは『仕事をやるうえで大切なことはしっかり覚えて、自信をもってやること』『大きな声で話すこと』『これからはパソコンと英語力が大事』といったアドバイスもらった」などといった感想が。

引率の小野榮悦校長先生は「修学旅行で先輩と交流させていただいたことは貴重な体験で素晴らしい機会だった。このように応援してもらえることはありがたい。しかし昨年は40名、今年は33名、そして来年は19名と生徒数が年々減少している。地域の課題は明確だ」と話した。

会場は新宿センタービルの48階にあり、生徒たちは高層ビルからの眺めを楽しんでいた。こうした首都圏との交流によって、双方がふるさとを考え、支える人材を育成していったほしいものだ。



(上)交流会での集合写真

(右)グルーpstadyの様子

